

せんぱい

令和6年 1月
第71号



物部川 遡上鮎



仁淀川 友釣り



仁淀川 落ち鮎漁



仁淀川 鮎放流体験

写真：物部川遡上鮎：高知県内水面漁連、その他写真：仁淀川漁協

CONTENTS

新年のごあいさつ	2	我が漁連(新潟県内水面漁連)	18
全内漁連開催の各会議について		「わかやま友釣り塾」	20
監事会、総務委員会及び理事会を開催	3	密漁と密放流	22
外来魚対策の第2回検討委員会を開催	3	内水面漁協(第41回)	24
カワウ対策の第2回検討委員会と現地検討会を開催	4	愛しきアユ(第44回)	25
やるぞ内水面事業の内水面漁場管理検討協議会		ウナギ生息環境改善支援事業	26
・現地調査を実施	5	水産多面的機能発揮対策支援事業	27
第64回 全国内水面漁業振興大会を開催	6	令和5年度アユ種苗の河川放流実績調査報告	28
第2回全国事務担当者研修会を北海道で開催	10	日光支所から	29
カワウ被害対策におけるドローン研修会を開催	12	業務日誌	30
内水面漁業振興議員連盟の現地視察が開催される	14	職員のつぶやき	31
内水面漁業振興議員連盟総会	14	新聞記事から	31
秋の叙勲・水産功績者表彰・新会長の紹介	16	編集後記	31
内水面漁業協同組合の取組に期待	17		

漁業者(会員漁連の傘下漁協組合員)年間契約「四回発行」定価三〇〇〇円本体一七七八円送料サービス
漁業者以外の購読者年間契約「四回発行」定価三二〇〇円本体一九一〇円送料サービス
単品 定価七五〇円本体六八二円送料別
単品 定価八〇〇円本体七二八円送料別

information

全内では、クリアファイル・パンフレット・ポスターの普及啓発用資料を作っています。申込は各漁連でのとりまとめをお願いしています。申込締め切り後に新たに発注する場合には、単価が高額になりますので、初回申込でまとめて注文くださるようお願いいたします。詳しくはお問い合わせ下さい。



クリアファイル表図案 (A4)



クリアファイル裏面図案



パンフレット図案 (三つ折り6面)



ポスター図案 (B3判)

新年のごあいさつ

全国内水面漁業協同組合連合会 代表理事長 谷 公一



あけましておめでとうございます。

全国の内水面漁連・漁協並びに関係機関の皆様には、日頃より内水面漁業の振興のために、豊かな河川環境の保全、水産資源の増殖活動等にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表します。

昨年は、5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、イベントや旅行などの様々な行動規制も解除されました。各地の川や湖にも久々に賑わいが戻ってきたのではないのでしょうか。

▼会長職務復帰・全国大会へ

私事ではありますが、昨年9月の内閣改造に伴いまして、国務大臣を退任し、本会代表理事会長の職務に復帰いたしました。一昨年の8月から一年余り、国家公安委員会委員長、内閣府防災担当大臣等の大役を務めさせていただきました。この間、会長の職務を代理していただいた滑川幸男副会長理事(千葉県内水面漁協連合会会長)はじめ本会役員並びに会員の皆様には心より感謝申し上げます。それだけに復帰後は、なお一層内水面漁業の振興に注力してまいりますので、どうかよろしく申し上げます。

また、会長の職務に復帰して早々の昨年10月には、

群馬県高崎市において第64回全国内水面漁業振興大会を開催し、全国から約500名の内水面漁業関係者やご来賓の皆様にご参加をいただきました。皆様には、改めて御礼を申し上げます。今大会で採択された現場からの諸提案については、これから関係省庁と意見交換を行う課題を掘り下げ、早期の解決を図ってまいります。

▼これからの10年へ

さて今年、改正漁業法に基づく漁業権一斉切り替えにより、付与された漁業権による新たな漁場管理のスタートの年です。漁業権の存続期間であるこれからの10年間、内水面漁協には、免許された漁業権漁場を有効かつ適切に活用することが求められます。内水面漁協の皆様には、漁業法に基づき採捕量の報告義務など新たなご負担をかけることとなりますが、10年後の一斉切り替えにも漁業権を継続できるよう、適切な漁場の管理と効果的な水産資源の増殖をお願いします。都道府県の担当部局においても、内水面漁協の実態を十分ご理解いただき、無理のない現実的なご指導をお願いします。

▼地域づくりと人づくりへ

ふるさとの美しい川や湖沼と豊かな水産資源は、かけがえない地域の財産です。それを守り、育て、活用している内水面漁協は、地域づくりに欠かせない存在です。内水面漁協におかれては、地域づくりの重要な役割を担う主体として、市町村など地域の幅広い関係者と連携・協働しながら、地域ぐるみの活動を展開していただきたいと思います。

またそのためには、人口減少が進む地域の中で、内水面漁協が将来にわたって持続的にその役割を果たしていただけるよう、内水面漁協を支える人材が不可欠です。これから10年先、20年先を見据えて、新しい組合員や若い組合員の確保に取り組んでいく必要があると考えます。

内水面漁業にとって引き続き厳しい状況が続きますが、本会は、内水面漁業の現場の皆様の声を聴き、課題や要望の解決に向けて尽力してまいりますので、よろしく申し上げます。

新しい年が、内水面漁業関係者の皆様にとって良い年でありますよう祈念いたしまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。

全内漁連開催の各会議について

監事会、総務委員会及び理事会を開催

○第3回監事会

令和5年12月5日、千代田区丸石ビルの全内事務所において、齋川隆夫代表監事(青森県)、米村義信監事(山口県)の監事2名が出席し、令和5年度上半期の監事監査を行いました。

事業ごとの推進状況及び帳簿等について中興専務理事から説明し、質疑応答を行いました。

○第5回理事会

10月12日、群馬県高崎市の群馬音楽センターにおいて、第64回全国内水面漁業振興大会の進行について確認をしました。また、第65回については宮城県で開催することが承認されました。

○第3回総務委員会・第6回理事会

12月19日、千代田区の衆議院第二議員会館で左記のとおり開催しました。

第3回総務委員会

第6回理事会に先立ち、理事会の議案進行の確認、第12回全国内水面漁業振興功績に係る顕彰について、令和6年度の職員給与並びに業務体制について、などの協議を行いました。

第6回理事会

- (1) 本会の運営状況及び中間監査結果について
令和5年度上半期の運営状況について事務局より説明、齋川隆夫代表監事より監査報告書について報告いただき、承認されました。
- (2) 令和6年度賦課金の徴収方法について
令和5年度と同様の方法で徴収する案が承認されました。
- (3) その他
・内水面漁業振興議員連盟の会議について(報告)

12月8日に開催された総会概要の報告を行いました。

・職員の賞与支給について(報告)

・補助事業「やるぞ内水面漁業活性化事業」のアンケートについて(報告)

事業の中で漁協に対して行うアンケートについて説明を行いました。

・令和6年度の全国内水面漁業振興大会の開催準備について

次期宮城大会の概要と会場資料等、開催の準備について資料を提示し、審議しました。

外来魚対策の第2回検討委員会を開催

事業効果検証体制構築事業(補助事業)

【外来魚被害防止対策事業】

第2回を11月7日に東京都千代田区の丸石ビル会議室においてweb会議併用形式で実施し、検討委員、水産庁、環境省、オプザバーとして国土交通省等、合計19名が出席しました。第2回検討委員会では、4年度の実施状況と5年度の計画について意見交換を行い、6年度予算要求の状況について水産庁より説明を受けました。

検討委員の淀太我座長(三重大学)より提示いただいた資料に基づいて本事業におけるPDCAの現状について振り返り、課題について確認を行いました。オプザバーで参加頂いた国土交通省からは、三重県の名張川におけるコクチバスの産卵床ハザードマップ(産卵床が作られやすい要注意な場所を示した地図)の公開、ドローンで観測して産卵床を特定した事例などの紹介があり、良い事例はお互いに共有しながら、水産庁、全内と引き続き連携して全国的な駆除を進め

ていきたいとの説明がありました。

効果的な外来魚等抑制管理技術開発事業(委託事業)

12月18日、第2回検討委員会が、成果報告会としてエッサム神田1号館にて開催(Web併用)されました。検討委員、水産庁、本事業参画の水産研究・教育機構水産技術研究所および共同受託した4県3大学1民間事業者の研究機関担当者等、合計40名が出席しました。

本事業は、令和3年度から3ヶ年で始まった事業6課題に、昨年度に実施された別の外来種対策事業6課題が統合された12課題があり、本年度が最終年度です。外来魚等(オオクチバス・コクチバス・ブルーギル・アメリカナマズ・ブラウントラウト・ミズワタケチビルケイソウ)による被害水域における効果的な被害低減や侵入防止のため、ドローンや環境DNAなどの先端技術を活用した外来魚等の分布および分布地における増集場所の把握、そして外来魚等に有効で実行可能と考えられる駆除及び管理手法の開発・検討を行うことを主要課題としました。全内は、調査研究の評価と検討を行うための検討委員会を設置して、事業の円滑な推進および効果的な事業運営に努めました。

会議では、本事業の推進リーダーである水産技術研究所の坪井潤一主任研究員による事業の概要説明、続いて各課題担当者からの報告および委員らによる助言等を通して、5年度における成果および事業報告書、マニュアル類についての検討が行われました。年度末には成果等をとりとめた事業報告書、外来魚対策のマニュアル、外来珪藻(ミズワタケチビルケイソウ)の侵入防止等対策のための資料を作成して水産庁に報告する予定です。

内水面漁業振興議員連盟の 現地視察が開催される

令和5年10月2日・3日の二日間、滋賀県長浜市、高島市および大津市において、内水面漁業振興議員連盟(以下・議連)の現地視察が開催されました。

ご多忙の中、7名の先生方が参加されました。

- ・城内 実 議連幹事長(衆・静岡)
- ・八木哲也 議連副幹事長(衆・愛知)
- ・うえの賢一郎 議連副幹事長(衆・滋賀)
- ・大岡俊孝 議連幹事(衆・滋賀)
- ・斉藤洋明 議連事務局次長(衆・新潟)
- ・田畑裕明 議連事務局次長(衆・富山)
- ・小寺裕雄 議連幹事(衆・滋賀)

また、水産庁から、坂康之増殖推進部長、生駒潔内水面漁業振興室長、松永啓志内水面指導班長が同行されました。

全内からは、谷公一代表理事会長、滑川幸男副会長理事、渡部完副会長理事、中奥龍也専務理事が同行し、滋賀県河川漁連会長の佐野昇理事には現地でご協力をいただきました。

一日目は、長浜市の高時川漁協及び丹生川漁協において、昨年の8月の豪雨により上流の山地(元スキ一場)が大規模崩落したことにより、漁場への土砂流入の被害を受け、現在も濁りが続いている状況について説明を受け、意見交換を行うとともに漁場を視察しました。

余呉湖漁協では、滋賀県の外来魚対策及び遊漁者からの外来魚の買取や環境教育の取組について説明を受け、意見交換を行うとともに、老朽化した遊漁用の浮桟橋の状況等を視察しました。

(議連の斎藤洋明事務局長(衆・新潟)の議事進行の下、議連の城内実幹事長(衆・静岡)より10月2・3日の二日間で行った滋賀県への現地視察(濁水・外来魚・カワウ等問題の現状と課題)について報告がありました。水産庁の生駒潔内水面漁業振興室長からは、内水面漁業関連の各予算と事業について、全内の専務理事より、群馬県高崎市で開催した振興大会で採択された7つの議案について説明しました。また、出席した役員からは現場における内水面漁業の現状と課題について報告しました。



議連に参加した全内の役員(写真右前)

【出席役員からの発言概要】

・滑川副会長理事…シラスウナギの漁が解禁になったが厳しい。地球温暖化で海面の水温が上昇、獲れる魚が北に向かっている。千葉県のシラスウナギ漁も厳しい、厳しい時こそ頑張っていく。

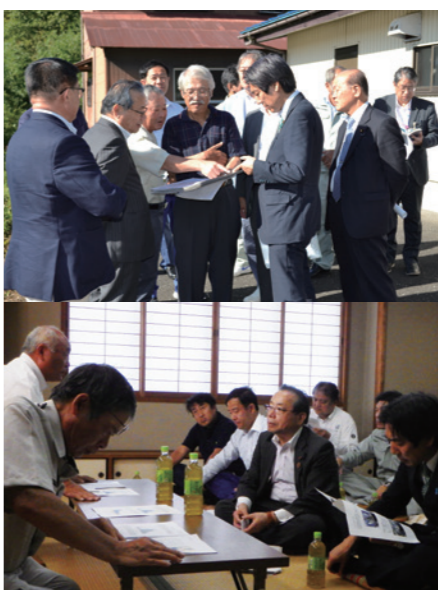
・渡部副会長理事…水産政策審議会の委員を務めている。国交省や環境省の審議会等でも、河川やカワウに関する事に対して、国の方針や施策を進める課程で内水面側の意見が反映出来るようにぜひ応援して頂きたい。

・宮田副会長理事…振興大会の議案7にあるように

二日目は高島市に移動し、安曇川において、今年から始まったシャープシューティング(SS)による駆除試験の実施状況や課題について説明を受け、意見交換を行うとともに、大規模コロニーの現場を視察しました。

大津市の堅田漁協(滋賀県漁連)では、琵琶湖における漁業の現状等について説明を受け、意見交換を行いました。

議連の皆様には、現場の声を今後の政策立案に活かしていただくことを期待します。



上:高時川漁協 下:余呉湖漁協



模擬銃を使ったSSの説明

カワウ対策をお願いしたい。イノシシ等と違いカワウは県境を跨ぐ移動がある。国庫補助事業があっても自己負担が重い。国庫委託金として事業費ができれば地方自治体の職員もフットワークが軽くなる。時限立法で取り組んで頂きたい。

・松元理事…熊の問題と同じようにカワウ対策についても非常時の対応があつて然るべき。何が危険か論議し、具体的な駆除の対策を講じるべきで手段があるのに縛られて動けないのが現状。河川管理と漁場管理は共通の認識で管理すべき。栃木県で行った研修では、建設土木関係者が河川の専門的な知識を持ち合わせていないことがわかった。それらを踏まえて河川管理をしてほしい。

・八田理事…外来魚の駆除に費やす時間と労力が大きい。駆除しても上流の山の池から下流に流れ込んでくる。カワウ対策も苦慮している。

【出席議員からの発言概要】

・片山さつき氏(参・比例)…カワウの第二種特定鳥獣管理計画が7県。カワウのコロニーは広いので、環境省でより駆除性・管理性が強い位置づけに移行することを来年以降検討してもいい時期ではないか。

・今枝宗一郎氏(衆・愛知)…ドローンの活用をしたカワウの対策はどのくらい効果がでているのか。KPIみたいなものを使って、実行を推進していく段階にきている。上流ダムから放出される水で川の温度や水量が下がる。生態系(アユ等)を守れているのか。それらに対する保障や支援が不十分だと思ふ。どのように考えているか。

・藤木真也氏(参・比例)…コロナ明けも熊本のアユの養殖業者が厳しい状況。獲る漁業から育てる漁業も進めて行くべき。ウナギ養殖について人工種苗の取組を加速してほしい。



丹生川漁協

内水面漁業振興議員連盟総会

令和5年12月8日、衆議院第二議員会館において、内水面漁業振興議員連盟(以下・議連)の総会が開かれ、全内からは、谷公一代表理事会長、副会長理事の滑川幸男氏(千葉)・渡部完氏(兵庫)・宮田幸一氏(鹿兒島)、理事の松元平吉氏(群馬)・八田伸一氏(石川)、中奥龍也専務理事及び事務局が、関係省庁からは、農林水産省(水産庁・農村振興局)、国土交通省、環境省、経済産業省、総務省の担当者が出席しました。開式に当たって、議連の野村哲郎会長(参・鹿兒島)及び、全内の谷公一代表理事会長、水産庁の坂康之増殖推進部長から挨拶がありました。

・八木哲也氏(衆・愛知)…矢作川漁協の組合長として現状の説明。カワウが沢山いるが猟友会も高齢化で人数が減り限界がある。花火で追い払っても効果が薄い。明治用水が壊れた際、遡上が大幅に減った。魚道の一部が復旧し今年4倍の遡上があつたが川にコケが生えないので型が小さかった。治水対策も大事だが生態系に配慮した近自然工法等を取り入れて頂きたい。

・城内実氏(衆・静岡)…発言にあつた国交省や環境省の審議会に全内が参加することについては、水産庁からも各省に相談いただきました。

・宮澤博行氏(衆・比例東海)…内水面は国交省や県の土木との関係が大きい。太田川や天竜川のダムが出来た後の濁りや砂礫の問題。河口付近におけるウナギの遡上は、河口が埋まって浅すぎても遡上出来ない。水産庁と国交省との連携が不可欠。

これらのことについて、関係省庁の担当者より現状と対応策などの説明がありました。

【出席議員】五十音順(敬称略)

本人出席29名

(衆) あおやま周平・今枝宗一郎・衛藤征士郎

大塚 拓・小里泰弘・尾身朝子・勝俣孝明

城内 実・小島敏文・斎藤洋明・田畑裕明

塚田一郎・林 幹雄・細田健一・堀内詔子

宮澤博行・八木哲也

(参) 猪口邦子・江島 潔・片山さつき・佐藤信秋

清水真人・進藤金日子・野村哲郎・舞立昇治

藤木真也・牧野たかお・松下新平・渡辺猛之

代理人出席23名